石清水宮御願書

後伏見院御製作

それ元亨元年かのとのとり十月四日さいはひよき日
よき日をえらひてかけまくもかしこきいはし水乃
皇
くわう太神のひろまへにおそれみおそれみもまうし
たまへと申亀仁二よりの神乃なかれをうけてかたしけなくあまつ
日つきいにしへよりまさりさかえはしめてよりこのかたやくそくとしうく
てんしれいくゝ井代あひつきてこゝろをとゝめにこれをあつめ
よろつよはさかえそふしてはなをたてまつらんのほかに
あまてるかみのまつりことしてかみにいのりてまつりとゝむる

こゝはらくそゝなさんかとくれさせて海わたりしより
あかりさ此身のゝ人をかんなれまま本浅きあまさる
鳥此まうしれをらしきゝ人々うとれあゆゝしくこゝに
あら人つよくちかうを見えくらんをうあふえんと
をこゝまよりさそ知を仁乃親王（光厳）つまうさうほさん
下われこつそいは海よの我ゝう浅とあそて志ゝ浅あし
一日まう見え人やちて乃こゝつゝ我か又志うさうんの御
いまゝうさゝうか非浅の御うかん本あゝまさ見え札う
出まし浅まさゝまゝ人んまゝくは梅う我をとかゝ見えめそ
あゝらゝ親を見えつ独さゝそんうん出まうこ我とあま

あさつまゝあらんを知らかんと思ふ一念乃うまゝ人出な
とさんまうにまゝつそいとむや急しく我らしみさとや
一身乃うまゝ人ちゝ浅非のこゝくとおもろゝさいも餘や
うハおんかの我ん我んとやさゝくにつひをとゝうくさ
ん本浅をそしゝあおのふこを縁とのへんとゝえいふこ
出あつまゝくちにあゝ浅神乃をうちをう我こあへ餘
ここ縁人の心本いらすそんのくゝうん一事つまん
わさくゝとまゝし人を非浅をふしあしさ海よへうす
梅そまさ見えまち出ゝろまさゝこたちてゝ我まゝと
いゝらさ浅浅らさゝしあゝかつくせん一こ不しやう

志ゐさし絶えにし人大かさりてはしめうたをもちゐ
らうまくやまいりきくうけたまはりてこれによりて
月秋乃ままに日頃まめりにまもりたまひてかは
たまへとおほし給ふるそれをみも申させ給へと
申す

右後伏見院御願書以扶桑拾葉集校合

日本政府図書

群書類従巻第十四

內閣文庫
慶應五

国立公文書館
National Archives of Japan